

ム讀ケル、

ホノトアカシノウラノアサギリニ島ガクレ行舟ヲシゾオモフ、ト云テゾ泣ケル、此レハ、
篁ガ返テ語ルヲ聞テ語リ傳ヘタルトヤ、

〔平家物語〕すゝきの事

ある時、たゞもりびせんの國よりのぼられたりけるに、鳥羽の院あかしのうらはいかにとおほ
せければ、忠盛かしこまつて、

有明の月もあかしの浦風に波ばかりこそよるとみえしかと申されければ、院大きに御かん
有て、やがて此歌をば、金葉集にぞ入られける、

〔本朝無題詩七〕過備前藤戸浦有興

殘雲樹様難相比、明月峽圖不足論。煙色斜籠秋岸草、潮聲鎮打暮山根。洛陽人若問斯地、爭以舌端子
細言。沙烟迎霧日華白、江雨經秋楓葉黃。李放畫圖何得寫、蓬壺境界亦能望。山如碧障水如簾、此處征
人皆斷腸。

〔本朝無題詩旅館付路次〕著長門壇即事

浪驛涉旬猶泛然、愁中有興綴詩篇。隣船礎日引麻布幕、礙船之中有一小坏、以疎布爲單里社祈風供木
綿。遙岸有一社、常州稱二宮、於舟中而奉使是不日祈順氣夜憶遐鄉、纔入夢、晴望孤島小於拳。一尋西府溫泉地、治病逗留及兩年。

〔於長門壇逗留重賦六韻〕

釋蓮禪

同人

落帆停棹暫容與、臨海館長門館名也邊望眇焉渡口繁舟秋浪咽、山腰訪寺暮雲屯。僧談中道無三教、人禮
西方卽一尊、採藥路深逢白雨燒、香煙細向黃昏柴荆不閉新孤店、桑梓幾方舊小園。非唯地形多感事、
土宜案內聞民言、

藤戸浦前國

長門國